

第47回 全日本登山体育大会

プログラム

北海道大会

十勝岳連峰 大雪山 芦別岳



旭岳

えぞ地に集う

悠久の大地



富良野岳から十勝岳連峰

期日 平成20年7月11日(金)～13日(日)

会場 美瑛町 旭川市 富良野市 上富良野町 東川町

主催 (社)日本山岳協会

主管 北海道山岳連盟

後援 文部科学省 (財)日本体育協会

北海道 北海道教育委員会 (財)北海道体育協会 大雪山国立公園観光連盟

旭川市 美瑛町 富良野市 上富良野町 東川町 道北遭難対策協議会

協賛 (株)りんゆう観光 (株)秀岳荘 (株)大塚製菓 (株)ノマド I C I 石井スポーツ

(株)北海道地図 TOP TOUR

全日本登山体育大会開催地一覧表

回数	年度	期 日	開 催 地	主 管
第1回	昭和31年	11/22-25	大峯山・大台ヶ原	関西地区
第2回	昭和33年	3/20-24	十勝岳連峰	北海道
第3回	昭和34年	3/1-3	木曾御嶽山	東海地区
第4回	昭和35年	5/14-17	尾瀬	関東地区
第5回	昭和36年	8/23-27	剣山	徳島県・高知県
第6回	昭和37年	2/10-14	大雪山系・ニペソツ・ウペペサンケ	北海道
第7回	昭和38年	7/20-23	魚沼三山	新潟県
第8回	昭和39年	4/29-5/2	岩手山・八幡平・駒ヶ岳	岩手県
記念大会	昭和39年	10/31-11/5	南アルプス国定公園指定記念大会	静岡県
第9回	昭和40年	2/13-16	但馬山地	兵庫県
第10回	昭和41年	6/4-7	白山	石川県
第11回	昭和42年	8/8-12	知床	北海道
第12回	昭和43年	4/27-5/2	屋久島	鹿児島県
第13回	昭和46年	8/1-	秋田駒・白岩山・和賀岳・薬師岳	秋田県
第15回	昭和49年	4/1	大崩山	宮崎県
第16回	昭和51年	3/21-25	秋田駒ヶ岳	秋田県
第17回	昭和52年	3/20-23	大山	鳥取県
第18回	昭和52年	11/20-23	大奉山	奈良県
第19回	昭和53年	5/25-28	蔵王連峰	宮城県
第20回	昭和54年	4/18-22	日光山系	栃木県
第21回	昭和56年	6/4-7	九重山系	大分県
第22回	昭和58年	6/17-19	甲武信岳	埼玉県
第23回	昭和59年	9/22-24	石鎚山	高知県
第24回	昭和60年	7/26-28	早池峰山・薬師岳	岩手県
第25回	昭和61年	9/5-7	ニセコ連峰・羊蹄山	北海道
第26回	昭和62年	9/21-23	丹沢	神奈川県
第27回	昭和63年	9/17-19	飯豊山	山形県
第28回	平成元年	10/8-9	宮島・三倉岳	広島県
第29回	平成2年	6/1-3	双六岳・笠ヶ岳・槍ヶ岳・穂高連峰	岐阜県
第30回	平成3年	7/5-7	北岳	山梨県
第31回	平成4年	10/30-11/2	熊野古道・中辺路	和歌山県
第32回	平成5年	11/13-15	国見岳・烏帽子岳・白鳥岳	熊本県
第33回	平成6年	9/23-25	立山・大日岳・剣岳	富山県
第34回	平成7年	11/3-5	小豆島・寒霞溪	香川県
第35回	平成8年	9/14-16	鳥海山	秋田県
第36回	平成9年	11/1-3	蒜山山群	岡山県
第37回	平成10年	7/10-12	大雪山系	北海道
第38回	平成11年	10/15-17	御在所岳	東海地区
第39回	平成12年	9/15-17	谷川連峰	群馬県
第40回	平成13年	8/24-26	伊吹山	滋賀県
第41回	平成14年	8/23-25	くじゅう連山・祖母山	大分県
第42回	平成15年	8/22-24	白馬岳・唐松岳・梅池 他	長野県
第43回	平成16年	11/20-22	奥多摩	東京都
第44回	平成17年	8/26-28	石鎚山系	愛媛県
第45回	平成18年	10/13-15	吾妻山系・安達太良山系・磐梯山系	福島県
第46回	平成19年	10/19-21	秋吉台国定公園	山口県
第47回	平成20年	7/11-13	十勝岳連峰・旭岳・芦別岳	北海道
第48回	平成21年			和歌山県・奈良

ご挨拶

第47回全日本登山体育大会に寄せて



(社)日本山岳協会 会長 田中 文男

「来年は北海道ですね」「またお会いしましょう」そう言って、多くの山仲間が第46回全日本登山体育大会の開催地山口県に別れを告げました。

あれからもう1年。早くも第47回全日本登山体育大会の開催の時期となりました。主管して下さるのは北海道山岳連盟の方々。過去何回も大会を開催して下さっているので準備と運営には全く問題がありません。まさに全国の皆さんが「悠久の大地 えぞ地に集う」のを待つだけとなりました。

さて、いつも申し上げていることですが、日本山岳協会が主催する全日登山体育大会は全国から多くの山仲間が集い、共に語り、共に登る大会として長い歴史を持っております。

主管して下さる地元山岳連盟、協会の方針によって時には氷雪の技術や岩登りの技術を必要とするコースを設ける事もありますが、今回の大会の特徴はどのコースも北海道特有の空の蒼さを見つめ、残雪の真白さにふれ、更に色とりどりの花の香に酔えるという事です。

本格的な夏の訪れには少々早いかもしれませんが、本州とは異った山の世界が十分に楽しめます。

ご承知のように単独ではちょっと登りにくいのが北海道の山々、それを今回は大勢の方々と一緒に登って頂けるように10コースが用意されております。

どのコースもそれぞれ特徴があり、期待を裏切らないものと確信しております。どうか納得がいくまで山を楽しみ、自然に親しんでください。

終わりにになりましたが本大会のため、北海道をはじめ旭川市、富良野市、美瑛町、上富良野町、東川町そして主管の北海道山岳連盟など、多くの方々のご協力とご支援を頂きました。

厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



歓迎のことば

北海道山岳連盟会長 鎌田 耕治

全国から沢山の山仲間をお迎えして第47回全日本登山体育大会を盛大に開催できますことを、大変うれしく存じます。北海道大会に参加の皆様を、主管する北海道山岳連盟一同心より歓迎申し上げます。

北海道の中央部、美瑛の丘が爽やかにかがやく季節、ラベンダーと色鮮やかな縞模様の花畑の丘陵の向こうに大雪山連峰と十勝岳連峰が連なる自然いっぱいの大地、この北海道に皆様をお迎えする日をお待ちしておりました。

爆裂火口から噴煙をあげる十勝岳を中心に美瑛岳、カミホロカメットク山の連峰と富良野岳から原始が原湿原への縦走コース、北海道最高峰の旭岳とその裾周辺の高山植物の群落、そして夕張山脈の岩峰芦別岳など、自然そのままの10コースの登山はそれぞれにご満足いただけるものと確信しております。

北海道山岳連盟一同は、大会参加の皆様を温かく歓迎しよう、意義ある交流の場にしたいと、スタッフの研修や準備に準備を重ね、企画を練って今日を迎えました。

大会の宿舎も、国立大雪青少年交流の家「ゆーすぴあ大雪」の全面的なご好意をいただいている利用ですが、研修施設でありいろいろと制約もあります。皆様には少々不便をおかけするかも知れませんが、これも登山行動の一環として、登山というものの原点に立ち返るいい機会であり環境かとも思います。

折しも、この大会前日まで北海道洞爺湖サミットが開催され、地球規模の環境問題が大きな議題として討議されています。私たち岳人の自然保護運動も幅広い視点からの活動と実践が求められるのではないのでしょうか。この全日大会が岳人仲間の熱い友情と交流の場として、さらに日本山岳協会の発展性ある年次大会となるよう願ってやみません。

この大会の開催にあたりまして、北海道をはじめ旭川市、美瑛町ほか沢山の関係機関、関係各位の温かいご支援とご協力をいただきましたことに、心から厚くお礼申し上げますとともに、大会参加の皆様がどうぞ安全無事に登山できますようお祈りして、歓迎の挨拶といたします。



祝 辞

北海道知事 高 橋 はるみ

緑さわやかな季節を迎え、第 47 回全日本登山体育大会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、全国各地から参加された皆様のご来道を、心から歓迎いたします。

北海道は、豊かな自然に恵まれたアウトドア活動に適した地域であり、自然とのふれあいを求める意識の高まりの中で、多くの人々が登山に親しんでいます。

特に、大自然そのものである広大な北海道の山々は、美しい景観と動植物の宝庫となっており、また、火山活動が造形したバリエーションに富んだ山容や、山麓に点在する野趣あふれる温泉等の魅力にもあふれています。

この度、「悠久の大地 えぞ地に集う」というテーマの下、歴史ある本大会が開催され、大会を通して、緑豊かな山々が連なる北海道の自然の魅力を全国に向けて発信できますことを、大変嬉しく思います。

参加者の皆様には、雄大な大自然の風景を楽しみながら、登山技術の向上を図られますとともに、全国各地の仲間や地域の皆さんと大いに親睦を深められ、思い出に残る素晴らしい大会にしていただきたいと思います。

また、本大会は自然保護と地球温暖化について検証しながら、美しい日本の自然を守り続けることも目的の一つと伺っています。

大会直前に本道で開催された「北海道洞爺湖サミット」では、地球環境問題を主要なテーマに、世界の未来に向けた真摯な議論が行われたところであり、本大会に参加された岳人の皆様におかれましても、登山を通じ、美しい自然の未来への継承に取り組まれますことを、ご期待申し上げます。

終わりに、本大会の開催にご尽力された社団法人日本山岳協会と北海道山岳連盟の皆様には深く敬意を表しますとともに、本大会のご成功と出場される皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます、歓迎のごあいさつとします。

歓迎のことば

ようこそ「丘のまちびえい」へ



美瑛町長 浜田 哲

このたび、第47回全日本登山体育大会北海道大会が、大雪山国立公園十勝岳連峰を中心に開催され、全国各地から山を愛する多くの皆様をお迎えし、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、町民を代表しまして心からご歓迎を申し上げます。

美瑛町は、北海道のほぼ中央に位置し、近年は「丘のまち」として基幹産業である農業が織りなす景観が脚光をあびて、国内外から多くの観光客をお迎えしております。あわせて、自然と人間の営みが長い年月をかけてつくりあげた、美しい日本の農山村の景観や文化を守り、慈しみ、楽しみながら、しっかり未来に継承していくために、「日本で最も美しい村」連合を全国の10町村1地域で結成し、自らの地域を愛する住民の皆様とともに、活動をすすめているところであります。

連峰の主峰十勝岳は、四季折々に雄大な美しさを見せてくれますが、今も噴煙を上げる活火山であり、昭和63年から平成元年にかけて小噴火を繰り返したことは、皆様の記憶に残っていることと存じます。このように、噴火災害に備えなければならない一方で、美瑛白金温泉や泥流跡のしらかば街道、望岳台などの景勝地は訪れる人々に癒しを与え、山麓の原生林に生息する野生動物には、豊かな自然の恵みを与えています。

また、今回、宿舎として利用していただく国立大雪青少年交流の家は、十勝岳のふところに抱かれた天然温泉を有する研修施設であり、大会期間を通じて北海道の大自然に直に触れながら、交流を深めていただけるものと思っております。

終わりに、本大会の開催にあたり、ご尽力されました役員、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本大会が皆様の心に残る大会となりますようご祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば



旭川市長 西川 将人

一年を通じて最も爽やかで青空が高く澄み渡る、この季節に「第47回全日本登山体育大会」が多くの参加者のもと盛大に開催されますことにお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様を心から歓迎申し上げます。

本大会のコースは、十勝岳連峰を中心に国内最大の大雪山国立公園内に10コースを御用意されているとのことでありますが、御承知のとおり、当公園は、人の手が入っていない豊かな大自然が四季折々で表情を変え、夏の登山をはじめ、秋は紅葉、冬はスキーと年間を通じて、私たちを楽しませてくれております。

本市にとりましても、市内に大小130本以上の川が貫流しておりますが、その多くは、この十勝岳連峰など大雪の山々を源流とし、この豊富な水資源が、緑豊かな都市景観の形成、さらには良質な農作物の育成にとりまして大きな役割を果たしており、その恩恵を大いに受けているところであります。

さて、本大会は、「悠久の大地 えぞ地に集う」と題し、全国の岳人が集い、雄大な北海道の自然にふれながら、登山技術の向上と親睦を図り、また自然保護と地球温暖化についても検証しながら、美しい我が国の自然を守り続けることを目的とされていると伺っております。

この度、450名もの方々が参加されるとのことですが、当日は天候に恵まれ、大雪の山々の中、爽やかな汗を流されますとともに、山を愛する皆様の互いの親睦が一層深められる有意義な大会となりますよう祈念申し上げます。

また、是非この機会に旭山動物園にもお越しいただきたいと存じます。

本動物園は、行動展示をいち早く取り入れ、他の動物園では見られない動物の生き生きとした姿を身近に見られるということで、一躍観光面で脚光を浴びておりますが、一方で、職員が「命を伝える」ことを使命として、命の大切さや環境破壊が生態系にどう影響するのかということにつきましても様々な取り組みを行い、全国に発信しているところであります。皆様方にも動物園を楽しんでいただきたいと同時に、そうした園の思いも感じ取っていただければ幸いに存じます。

結びに、本大会の御成功並びに大会開催に御尽力いただきました社団法人日本山岳協会、北海道山岳連盟の限りない御発展と皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げ、歓迎のごあいさつといたします。

「へそとワインとスキーのまち」富良野市へようこそ



富良野市長 能 登 芳 昭

第 47 回全日本登山体育大会北海道大会が、北海道の屋根と言われます十勝岳を中心に全国各地から大勢の登山愛好者の皆さまをお迎えし、開催されますことを心よりお喜び申し上げますとともに、市民を代表して歓迎するものであります。

富良野市は北海道の中央部、西に夕張山系芦別岳、東に十勝岳連峰に囲まれ、清流空知川がもたらす肥沃な大地には、稲作をはじめさまざまな農産物が生産される一方で、北海道を代表する丘陵景観から多くの観光客が訪れるなど、農業と観光を基幹産業とした田園都市が形成されております。

また本市では、ごみ資源化率 90%を達成しており「環境にやさしいまち」として全国でも高い評価を得ているところであり、本大会においては、自然保護の観点からオーバーユースを考慮され、10本の登山コースに分散して大会を実施されていることに敬意を表するものであります。

北海道の大自然を満喫して頂くことは勿論であります、この機会に自然環境の保護・保全につきましても感心を深めて頂きたいと期待するものであります。

富良野地方は本格的な夏の観光シーズンに入り、ラベンダーをはじめとする様々な花が皆さまをお迎えするところであり、登山大会で心地よい汗を流された後は、テレビドラマ「北の国から」・「優しい時間」などのロケ地を散策され、「ふらのワイン」・「ふらのチーズ」などの農産加工品やメロン・スイカなどの夏の味覚を堪能され、北海道・富良野の夏を満喫して頂きたいと思えます。

最後に今大会の開催にあたりご尽力をされました北海道山岳連盟をはじめとする関係者の皆様に対しまして敬意を表しますとともに、本大会の成功にご参加頂きました皆様のご健勝でのご活躍を祈念申し上げ歓迎の挨拶といたします。



歓迎のことば

上富良野町長 尾岸 孝雄

第47回全日本登山体育大会が大雪山国立公園十勝岳連峰「ラベンダー発祥の地」上富良野町において、全国各地から山を愛する多くの山仲間をお迎えし、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに、町民を代表いたしまして歓迎申し上げます。

十勝岳連峰は幾度の火山活動を経て約5万年前頃から現在の十勝岳連峰が形成され、安政5年に幕府の命を受けた松浦武四郎がアイヌの人たちの協力を得て十勝岳連峰を調査しました。上富良野町は明治30年に開拓以来、農業を中心に発展してきており、わが国で初めて、農作物としてラベンダー耕作を昭和23年から始めました。

大正15年、昭和37年、昭和63年には十勝岳が噴火し、特に大正15年5月の噴火では、大泥流により死者・行方不明者144名（上富良野町137名、美瑛町7名）という大きな被害が出ていますが、現在は火山性微動も落ち着いております。昭和30年には陸上自衛隊が移駐し、現在では自衛隊員とその家族が町民の約25%を占めています。また地域の災害派遣山岳遭難救助等にも出動、また地域の各種イベントにも積極的に参加して頂いております。

さて、大雪山国立公園は日本最大の山岳公園であり、各所に永久凍土層が存在し山頂部は本州の3,000メートルクラスの山岳に匹敵する環境であります。夏季が2ヶ月間と短く、紅葉の訪れは9月初～中旬と日本で最も早く、公園敷地は90パーセント以上が国有地であり、自然公園としてふさわしい良好な利用が可能で、自然のふれあいの増進が図られていると思います。

今後は高山植物群落、希少な動植物の生息環境を保全し、大雪山国立公園の自然環境保全を地域が一丸となり実践し、地域振興や環境学習し活用することにより今後一層自然を愛する方々へ配慮したいと思っております。

終わりに、本大会の開催にあたり御尽力されました関係各位に厚く敬意を表しますとともに、本大会の御成功と、(社)日本山岳会並びに北海道山岳連盟の今後ますますの御発展を祈念申し上げます、歓迎のことばといたします。



歓迎のごあいさつ

東川町長 **松岡市郎**

第47回全日本登山大会が北海道の屋根大雪山で開催されますことをお喜び申し上げますとともに、大会にご参加いただいた皆様に歓迎のご挨拶を申し上げます。

大雪山の主峰・旭岳を擁し、旭岳・天人峡温泉に代表される大自然に抱かれながら、その恵みをいただいている本町としましては、栄えある行事が旭岳で開催されますことにひとしおならぬ感謝と感激の思いを致しております。長期間にわたり開催の運びとなりましたことは、「大雪山」を愛してやまない数多くの登山者の方々はもとより、関係者の方々による幾多の苦勞を乗り越えての献身的なご支援ご協力によるものであり、心から感謝を申し上げますとともに、待ちに待った本年の行事に参加されます登山者及び関係者の皆様に対し、心から歓迎を申し上げます。

どんなに時代は変わろうとも、写真の町・東川町は、旭岳をはじめとする雄大で魅力ある景色とかけがえのない大自然をいつまでも大切にし、誰もがいつでも豊かな気持ちになれる、写真映りの良い魅力あるまちづくりを目指し、登山者の方々をはじめ誰もがその恵みを分かち合えるよう、力を合わせて歩んでまいりますので、登山者の皆様におかれましても従前に増してご理解とご協力をいただきたいと思います。

最後になりますが、本登山会が快適で安全な遂行の下、盛大かつ思い出に残る行事として今後とも末永く継続されますこと、及び全ての参加、関係者の皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りしまして歓迎のご挨拶とさせていただきます。

目 次

挨拶

第47回全日本登山体育大会に寄せて	日本山岳協会長 田中 文男	1
歓迎の言葉	北海道山岳連盟会長 鎌田 耕治	2
	北海道知事 高橋はるみ	3
ようこそ「丘のまち美瑛」へ	美瑛町長 浜田 哲	4
歓迎のことば	旭川市長 西川 将人	5
	富良野市長 能登 芳昭	6
歓迎のことば	上富良野町長 尾岸 孝雄	7
歓迎のごあいさつ	東川町長 松岡 市郎	8
第47回全日本登山体育大会役員名簿		10
大会実行委員名簿		12
第47回全日本登山体育大会実施要項		14
開会式・レセプション・閉会式・交歓会の次第		16
記念講演「この素晴らしい大地」	写真家 市根井 孝悦	17
7月12日(土)登山日の行動表	A・B・C・Dコース	18
	E・F・G・Hコース	19
	I・Jコース	20
登山コース案内	Aコース、Bコース	21
	Cコース、Dコース	22
	Eコース、Fコース	23
	Gコース、Hコース	24
	Iコース、Jコース、姿見池周遊案内図	25
登山コース案内図	山城案内図	26
	十勝岳連峰案内図	27
	旭岳周辺・芦別岳案内図	28
参加者名簿		29

第47回全日本登山体育大会役員

大会名誉会長	高橋はるみ（北海道知事）	
大会会長	田中 文男（日山協会長）	
大会副会長	城 隆嗣（日山協副会長）	
	坂場 昭雄（日山協副会長）	
	大森 薫雄（日山協副会長）	
	鎌田 耕治（北海道山岳連盟会長）	
大会顧問	衛藤征士郎（日山協最高顧問）	橋場 昇（北海道教育長）
	堀 達也（北海道体育協会長）	齊藤 一男（日山協顧問）
	吉田 文夫（日山協顧問）	二木 節夫（日山協顧問）
	石塚 彰（日山協顧問）	鈴木 清（日山協顧問）
	浅野 清彦（日山協顧問）	坂口 三郎（日山協顧問）
	山本 久子（日山協顧問）	高室陽二郎（日山協顧問）
	瀧島 清（日山協顧問）	国澤 鎮雄（日山協顧問）
大会参与	西川 将人（旭川市長）	能登 芳昭（富良野市長）
	浜田 哲（美瑛町長）	松岡 市郎（東川町長）
	尾岸 孝雄（上富良野町長）	道北地方山岳遭難対策協議会
	工藤 洋司（岩手県山岳協会会長）	佐々木義宗（秋田県山岳連盟会長）
	生亀 知侑（山形県山岳協会会長）	尾形 一幸（福島県山岳連盟会長）
	小島 守夫（栃木県山岳連盟会長）	星野 光（群馬県山岳連盟会長）
	森谷重二郎（東京都山岳連盟会長）	宇野 仁章（千葉県山岳連盟会長）
	大曾根 弘（神奈川県山岳連盟会長）	遠藤家之進正和（新潟県山岳協会会長）
	村田 信親（石川県山岳協会会長）	牧野 治生（福井県山岳連盟会長）
	滝田 博之（静岡県山岳連盟会長）	亀井 正明（三重県山岳連盟会長）
	山並 久次（大阪府山岳連盟会長）	國松 嘉仲（滋賀県山岳連盟会長）
	吉村 忠明（奈良県山岳連盟会長）	藪田 武人（和歌山県山岳連盟会長）
	天津 邦之（島根県山岳連盟会長）	岡本 忠良（岡山県山岳連盟会長）
	長谷川忠彦（広島県山岳連盟会長）	森下 立昭（香川県山岳連盟会長）
	田福 正治（徳島県山岳連盟会長）	市村 藤一（高知県山岳連盟会長）
	足達 敏則（福岡県山岳連盟会長）	多田 修（佐賀県山岳連盟会長）
	内田 徳郎（熊本県山岳連盟会長）	首藤 宏史（大分県山岳連盟会長）
	国崎 敏廣（鹿児島県山岳連盟会長）	田場 典淳（沖縄県山岳連盟会長）

大会委員長	内藤 順造 (日山協専務理事)	
大会副委員長	仙石 富英 (日山協常務理事・普及委員長)	
	小野 倫夫 (北海道山岳連盟副会長)	
	西條 信義 (北海道山岳連盟副会長)	
	土屋 勲 (北海道山岳連盟副会長)	
	太田 紘文 (北海道山岳連盟副会長)	
大会委員	若月 東兒 (日山協常務理事)	相良 忠麿 (日山協常務理事)
	本木 總子 (日山協常務理事)	牧野 龍峰 (日山協常務理事)
	永井 豊 (日山協常務理事)	西内 博 (日山協常務理事)
	福田 亮雄 (日山協常務理事)	青木 茂 (日山協常務理事)
	高山 雅夫 (日山協常務理事)	北山 真 (日山協常務理事)
	佐藤 光由 (日山協常務理事)	長谷川 茂 (日山協常務理事)
	下山 壽 (日山協理事 青森)	小島 亮治 (日山協理事 宮城)
	松本 睦男 (日山協理事 富山)	柳澤 昭夫 (日山協理事 長野)
	堀井 啓介 (日山協理事 岐阜)	安藤 武典 (日山協理事 愛知)
	中島 龍 (日山協理事 兵庫)	伊藤 克己 (日山協理事 滋賀)
	栗飯原一成 (日山協理事 京都)	小笠原 治 (日山協理事 山口)
	亀尾 崇 (日山協理事 鳥取)	白石 崇 (日山協理事 愛媛)
	笈賀 進司 (日山協理事 宮崎)	溝上 春見 (日山協理事 長崎)
	吉田 春彦 (岩手県山岳協会理事長)	吉田 弘司 (宮城県山岳連盟理事長)
	浦山 沢樹 (秋田県山岳連盟理事長)	粕川 令人 (山形県山岳協会理事長)
	三森 一男 (福島県山岳連盟理事長)	村岡 正己 (埼玉県山岳連盟理事長)
	関口 薫 (千葉県山岳連盟理事長)	若村 勝昭 (東京都山岳連盟専務理事)
	水島 彰治 (神奈川県山岳連盟理事長)	大西 浩 (長野県山岳協会理事長)
	森 庄一 (新潟県山岳協会理事長)	野崎 裕一 (富山県山岳連盟理事長)
	高田 和彦 (石川県山岳協会理事長)	中村 隆喜 (福井県山岳連盟理事長)
	木ノ内高嘉 (静岡県山岳連盟理事長)	北村 憲彦 (愛知県山岳連盟理事長)
	萩 真生 (三重県山岳連盟理事長)	小木曾昭文 (岐阜県山岳連盟理事長)
	本田 章紘 (滋賀県山岳連盟理事長)	宮永 幸男 (京都府山岳連盟理事長)
	藤木 健策 (大阪府山岳連盟理事長)	古賀 英年 (兵庫県山岳連盟理事長)
	藤本 直民 (奈良県山岳連盟理事長)	小比賀利雄 (和歌山県山岳連盟理事長)
	宇津 誠 (島根県山岳連盟理事長)	妹尾 東祐 (岡山県山岳連盟理事長)
	古林 善明 (山口県山岳連盟理事長)	山田 雅昭 (広島県山岳連盟理事長)
	木村 康男 (香川県山岳連盟理事長)	原 秀樹 (徳島県山岳連盟理事長)
	新田 優 (愛媛県山岳連盟理事長)	中村 正博 (高知県山岳連盟理事長)
	山上 司 (福岡県山岳連盟理事長)	庄野 章直 (佐賀県山岳連盟理事長)
	下田 泰義 (長崎県山岳連盟理事長)	工藤 文昭 (熊本県山岳連盟理事長)
	後藤 利雄 (大分県山岳連盟理事長)	古里 亜夫 (宮崎県山岳連盟理事長)
	永谷 常和 (鹿児島県山岳連盟理事長)	岸本 孝一 (沖縄県山岳連盟理事長)

大会実行役員

実行委員長	鎌田耕治（道岳連会長）
実行副委員長	西城信義（道岳連副会長）、太田紘文（道岳連副会長）、土屋 勲（道岳連副会長）
運営本部長	小野倫夫（道岳連理事長）
総務部長	小野倫夫（道岳連理事長）
総務副部長	江崎幸一（道岳連副理事長）、三浦陽一（美瑛山岳会長） 中岡信昭（美瑛）、内藤美佐雄（美瑛）
事務局長	石丸芳子（道岳連事務局長） 室本留見子（道岳連）、荒谷雅子（苫小牧岳連）、大橋静子（十勝岳連）、米山京子（苫小牧岳連）、内城みえ子（函館マウンテン）、広岡賢治（小樽）、一鐵 巖（小樽）
会計	築田一夫（山道会）
記録	（主）小松昭雄（道岳連）、五十嵐順一（美瑛）、安田 聡（札幌岳連）
事業	（主）菅原修三（道岳連常任理事）、佐藤 眞（道岳連常任理事）、山納秀俊（道岳連常任理事）、菅原慶子（山道会）
会場	（主）苅谷勝利（道岳連常任理事）、橋村昭男（道岳連常任理事）
式典部	（長）斉藤邦明（道岳連常任理事）、（副）荒掘英雄（道岳連常任理事） 石田 稔（道岳連監事）、奈良憲司（登攀）、戸谷 薫（道岳連常任理事）
通信部	（長）駒津長康（道岳連常任理事） 駒津敬子（札幌岳連）、川竹 正（札幌岳連）、伊藤三喜男（恵庭）、宮園真壽美（札幌岳連）、下総 章（苫小牧岳連）、松久喜一（旭川）、村椿洋子（深川）
宿泊部	（長）明田通世（道岳連常任理事）、（副）宮崎松雄（苫小牧） 新井素子（苫小牧）、小林君枝（札幌岳連）、大高美智子（美瑛）、藤山ツネ（函館岳友）、小形なつ枝（美瑛）
輸送部	（長）神山 健（道岳連常任理事）、（副）橋村昭男（道岳連常任理事） 工藤寛（道岳連常任理事）、総根正則（旭川）長井洋子（札幌岳連）
医療部	（長）青山侑弘（小樽） 矢野直子（旭川）、吉野静夫（クワカノリ）
相談役	阿地政美（旭川）、藤田 理（苫小牧岳連）、西 信博（小樽）、澤田清美（札幌岳連）

第47回全日本登山体育大会各登山コース役員

※通信；主任通信員

【登山本部部長】 太田 紘文（十勝岳連） 【登山本部副部長】 林 千里夫（旭川）

【Aコース】 CL 為野 宣巳（千歳）

A1隊 SL 加藤 広美（函館岳友）

記録通信 田代 恵治（千歳）

川島 教実（RSI）

青野 健一（RSI）

吉川 智巳（美瑛）

救護 宮田千鶴子（美瑛）

A2隊 SL 松原 信自（苫小牧）

記録 新井 孝（苫小牧）

林 昇吾（苫小牧）

新井 素子（苫小牧）

救護 大岡 良美（苫小牧）

通信 狩野 明美（旭川）

【Bコース】 CL 山名 賢一 (富良野)

B1隊 SL記録 斉藤 丈寛 (下川)
通信 藤井 秀幸 (富良野)
高見 直広 (富良野)
救護 大屋美奈子 (富良野)

B2隊 SL 向川 司郎 (小樽)
記録 五十嵐圭一 (小樽)
土屋 彦 (小樽)
通信救護 青山 侑弘 (小樽)

【Cコース】 CL 森 紘昭 (十勝岳連)

C1隊 SL 小西 則幸 (十勝岳連)
富山 幸朗 (十勝岳連)
記録 佐藤 公一 (十勝岳連)
通信 小枝 悟 (十勝岳連)
救護 畑中 栄和 (十勝岳連)

C2隊 SL 寺嶋 洋一 (十勝岳連)
救護 前道 俊一 (十勝岳連)
記録 高瀬 健二 (十勝岳連)
通信 岩崎 二郎 (十勝岳連)
救護 守田 勇 (十勝岳連)

C3隊 SL 笠原 紘一 (旭川)
音尾 瑛一 (旭川)
記録通信 近藤 照衣 (旭川)
中瀬 博光 (旭川)
救護 李家 真理 (旭川)

C4隊 SL 福井 寿和 (苫岳連)
通信 中原 貢 (苫岳連)
堀口 満夫 (苫岳連)
記録 安田 聡 (札岳連)
内海 恭子 (札岳連)

【Dコース】 CL ~~通信~~ 藤木 晴夫 (室蘭岳連)
SL ~~数3~~ 山岸 肇 (室蘭岳連)
通信 ~~澤田 時大~~ (室蘭岳連)
記録 安田 一厚 (室蘭岳連)
救護 長谷川 将 (富良野)

【Eコース】 CL 八柳 正史 (苫小牧岳連)
SL記録 一篠 庄市 (苫小牧岳連)
一条 敏子 (苫小牧岳連)
川北 輝彦 (苫小牧岳連)
通信 作田 博行 (クーラカンリ)
救護 増子 麗子 (クーラカンリ)

【Fコース】 CL 寺口 一孝 (札幌岳連)
SL記録 坂倉 啓一 (札幌岳連)
通信 玉木とし子 (札幌岳連)
救護 坂井 洋文 (札幌岳連)

【Gコース】 CL通信 石川 孝一 (苫小牧岳連)
SL記録 吉田 昭二 (苫小牧岳連)
五十嵐雅人 (長万部)
救護 杉村 直樹 (長万部)

【Hコース】 CL 笈田 孝俊 (山道会)
SL 下川原浩司 (山道会)
記録 岩本 忠明 (山道会)
上野 敏彦 (山道会)
通信 小松三保子 (山道会)
救護 岩本 恵子 (山道会)

【Iコース】 CL 佐藤 健 (岩見沢岳連)
SL救護 本間 浩樹 (岩見沢岳連)
記録 田中 清子 (岩見沢岳連)
通信 千葉 均 (岩見沢岳連)

【スーパー隊】

(カミホロカメットク避難小屋待機)

【Jコース】 CL通信 滝澤 大徳 (斜里)
SL記録 宮西 博 (美唄)
薄田久美子 (函館岳友会)
鎌田 雅年 (函館岳友会)
救護 大高 雅子 (函館岳友会)

CL 能久 静夫 (札幌岳連)
SL 西谷 芳晴 (十勝岳連)
藤原 博 (はまなす)
奈良崎 功 (美唄)
宮崎 松雄 (苫小牧)

(姿見の池待機)

川原 卓也 (岩見沢岳連)
海老原照和 (岩見沢岳連)

第47回全日本登山体育大会北海道大会実施要項

「悠久の大地 えぞ地に集う」

【大会目的】

全国の岳人が集い、雄大な北海道の自然にふれながら仲間と登山を通して、登山技術の向上と親睦をはかる。また自然保護と地球温暖化についても検証しながら、美しい日本の自然を守り続ける大会にしたい。

1. 開催期日 平成20年7月11日（金）～13日（日）
2. 主催 （社）日本山岳協会
3. 主管 北海道山岳連盟
4. 後援 文部科学省・日本体育協会・北海道・北海道教育委員会・北海道体育協会
旭川市・富良野市・美瑛町・上富良野町・東川町・大雪山国立公園観光連盟
5. 協賛 ㈱りんゆう観光 ㈱秀岳荘 ㈱大塚製薬 ㈱ノマド ICI 石井スポーツ ㈱北海道地図
TOP TOUR
6. 開催場所 十勝岳連峰、旭岳周辺、芦別岳
7. 参加予定数 450名（限定）
8. 受付・開会式会場、宿泊場所
 - (1) 受付・開会式 「旭川グランドホテル」(案内図はP13)
〒070-0036 旭川市6乗通り9丁目 電話 016624-2111
 - (2) 宿泊 「国立大雪青少年交流の家」(愛称；ユースピア大雪)
電話(代) 0166-94-3121 fax 0166-94-3223
〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金温泉

9. 日程

第1日目 7月11日（金）

- 12:00~15:00 受付（旭川グランドホテル）
- 14:00~14:45 開会式（旭川グランドホテル3Fグランドホール）
- 15:00~15:50 講演 市根井孝悦氏（山岳写真家）
- 15:00~15:50 参与会総会
- 16:00~16:30 オリエンテーションおよび連絡
- 17:00~18:30 歓迎レセプション（旭川グランドホテル）
- 19:00~20:00 グランドホテルからユースピア大雪までバス移動（無料）
- 22:30 消灯

第2日目 7月12日（土）

- 4:00~6:30 朝食（食堂の収容容量の都合でコースによって2回に分ける）
- 5:00~17:00 登山行動（長時間コースから順次出発）
- 17:00~18:30 夕食（帰着時間によって2回に分ける）
- 19:00~19:30 閉会式
アトラクション（北海太鼓）
- 19:30~21:00 お別れ会
- 22:30 消灯

第3日目 7月13日(日)

6:00~8:00 朝食、清掃・後片付け(2回に分けて交互に行う)

8:30~ 解散セレモニー、解散、オプションツアー出発

※旭川空港経由、旭川駅まで臨時バス9:00発(有料予約制)

JR美瑛駅行き定期バス(道北バス)時刻 7:35、10:20

10. 登山コース(各コース45名予定)・・・()は登山時間、縦は縦走、☆は難易度

- | | |
|------------------------------------|-------|
| A 望岳台～十勝岳～美瑛岳～望岳台(縦9:40) | ☆☆☆☆☆ |
| B 望岳台～十勝岳～上ホロカメットク山～十勝岳温泉(縦7:30) | ☆☆☆☆ |
| C 十勝岳温泉～上ホロカメットク山～十勝岳～望岳台(縦7:15) | ☆☆☆☆ |
| D 十勝岳温泉～富良野岳～原始が原～布礼別登山口(縦7:30) | ☆☆☆☆☆ |
| ※原始が原(湿地帯)には木道が設置されていません。 | |
| E 芦別岳新道往復(8:40) | ☆☆☆☆☆ |
| F 望岳台～美瑛富士往復(6:30) | ☆☆☆ |
| G 吹上温泉。白銀荘三段山往復(3:30) | ☆☆ |
| H 旭岳ゴンドラ～旭岳～間宮岳～中岳温泉～旭岳ゴンドラ(縦7:10) | ☆☆☆ |
| I 旭岳ゴンドラ～旭岳往復(5:10) | ☆☆☆ |
| J 旭岳ゴンドラ～旭平(姿見の池周遊)(1:50) | ☆ |

◆登山の留意事項◆

<自然保護への配慮>

大会を実施する区域は、大雪国立公園の区域内です。このため、オーバーユースとならないよう各コースの人員の分散を図りローインパクトを心がけています。大雪山系の自然を末永く未来に引き継ぐためご協力をお願いします。この大会を通じ、自然保護の大切さを再認識する大会となるよう全員で努力しましょう

また、多くの登山者も訪れています。他の登山者から批判を受けることのないよう各自で心がけてください。

- ① ゴミの持ち帰りの徹底。 ② 高山植物等の踏みつけ防止。 ③ トイレマナーの徹底

<登山の注意>

北海道の山は様々な点で本州以南の山と違っていています。特に、次の点に留意するとともにトレーニングを積んでおいてください。

- ① 夏でも日によって気温が0℃近くまで下がることがあります。
- ② 雪渓が随所に残っています。(自信の無い方は軽アイゼンを持参してください)
- ③ ブヨや蚊が相当に多いので虫対策を厳重にしてください。(短パン姿は特に注意)
- ④ 熊が出現した場合はコースリーダーの指示に従って冷静に行動してください。
- ⑤ 各コース共山中には山小屋はありません。携帯トイレを持参してください。
- ⑥ 飲料水についてはエキノコックスの心配がありますので、沢水は汲まず、事前に宿泊所(ユースピア大雪)などで用意してください。

開 会 式

7月11日(金) 14時 旭川グランドホテル

司会 奈良憲司(北海道山岳連盟理事)

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1、開式のことば | 北海道山岳連盟副会長 西城信義 |
| 2、聖杖入場 | |
| 3、大会開始宣言 | 大会委員長 内藤順進(日本山岳協会専務理事) |
| 4、開会挨拶 | 日本山岳協会会長 田中文男
北海道山岳連盟会長 鎌田耕治 |
| 5、来賓祝辞 | 北海道知事 高橋 はるみ |
| 6、歓迎のことば | 美瑛町長 浜田 哲 |
| 7、来賓・大会役員紹介 | |
| 8、功労者特別表彰 | 表彰者代表 |
| 9、宣誓 | 参加代表者 |
| 10、閉式のことば | 北海道山岳連盟副会長 太田紘文 |

オリエンテーション及び諸連絡 16時

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1、全日程の説明 | 小野 倫夫(北海道山岳連盟理事長) |
| 2、登山コース説明 | 太田 紘文(北海道山岳連盟副会長) |
| 3、輸送・宿泊関係説明 | 橋村 昭男(北海道山岳連盟常任理事) |
| 4、「大雪青少年交流の家」宿泊説明 | 工藤 朝博(大雪青少年交流の家事業推進課長) |

歓迎レセプション 17時 3階 景雲の間・瑞雲の間

17:30~18:00 アトラクション よさこいソーラン(旭川北の大地)

閉 会 式

7月12日(土) 19時 国立大雪青少年交流の家体育館

司会 奈良憲司(北海道山岳連盟理事)

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 1、開式のことば | 北海道山岳連盟副会長 土屋 勲 |
| 2、講評 | 大会委員長 内藤 順造(日山協専務理事) |
| 3、閉会挨拶 | 日本山岳協会会長 田中文男
北海道山岳連盟会長 鎌田耕治 |
| 4、歓送のことば | 国立大雪青少年交流の家所長 清水勇行 |
| 5、感謝状贈呈 | 日本山岳協会会長 田中文男 |
| 6、聖杖引継ぎ | 次回開催山岳連盟会長(和歌山県・奈良県山岳連盟会長) |
| 7、大会終了宣言 | 北海道山岳連盟理事長 小野倫夫 |
| 8、アトラクション | 北鎮太鼓(自衛隊) |
| 9、閉会のことば | 北海道山岳連盟副会長 西城信義 |

交 歓 会

7月13日(日) 9時

- | | |
|---------|------------------|
| 1、送ることば | 北海道山岳連盟会長 鎌田 耕治 |
| 2、お知らせ | 北海道山岳連盟理事長 小野 倫夫 |

記念講演

このすばらしいカムイの大地

写真家 市根井 孝悦 氏

【プロフィール】

1938年、北海道函館市生れ。

1953年、北海道教育大学（函館）卒業後、函館白百合学園高等学校生物科教諭として奉職し、山岳部、写真部顧問として高校生を指導。全国高等学校体育大会登山部門、全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園）において、優勝監督として高い評価を受ける。

1965年 教職のかたわら北海道の屋根大雪山の撮影を開始。1990年より日高山脈を含む北海道全山域に取り組む。

1997年 教職を辞し、フリーランスの写真家として、北海道の山、自然にこだわって創作活動を続け、現在は再度大雪山の撮影に意欲を傾け、その集大成に傾注している。

【主なる著書】

写真集北海道の山三部作「大雪山 その母なる大地」「日高山脈 遥かなる山並」「カムイの山 北海道の名峰たち」、名峰シリーズ「大雪・石狩・十勝」、写真集「大雪山」（ともに山と溪谷社）、「大沼・駒ヶ岳・碧光の水辺」（北海道新聞社）、CD-Rom「母なる大地 大雪山」（金羊社）。

【写真展】

東京銀座富士フォトサロン、西武百貨店池袋店、東急百貨店池袋店、および北海道主要都市デパートなど多数開催。なお2005年、北海道立函館美術館の依頼で写真展「カムイの山 北海道の名峰たち」。06年、中国上海で開催の世界芸術博覧会に出展、好評を博す。

【受賞】

平成2年度、芸術新賞受賞（北海道文化団体協議会より）、平成15年度函館市文化賞受賞

7月12日（土）登山行動日の行動表（A～D隊）

Aコース（2隊62名）	Bコース（2隊50名）	Cコース（4隊113名）	Dコース（25名）
美瑛岳往復	望岳台→十勝岳→上ホロ→十勝岳温泉	十勝岳温泉→上ホロ→十勝岳→望岳台	富良野岳→原始が原
4:00 朝食（弁当配布）	4:00 朝食（弁当配布）	4:30 朝食（弁当配布）	4:00 朝食（弁当配布）
5:00 バス発車 （1・2号車D隊と）	5:00 バス発車（4号車）		5:00 バス発車 （2号車；A隊と）
5:15 望岳台到着	5:15 望岳台到着	5:50 バス発車 （1・3号車） （4号車；F隊と）	5:50 十勝岳温泉着
5:45 登山開始	5:45 登山開始		6:10 登山開始
6:40 雲ノ平分岐	6:40 雲ノ平分岐	6:30 十勝岳温泉着	6:50 安政火口分岐
		6:50 登山開始	7:20 上ホロ分岐
		7:30 安政火口分岐	
		8:30 上ホロ分岐	
9:30 十勝岳	9:30 十勝岳		9:50 富良野岳
	10:10 大砲岩	10:00 上富良野岳	
	10:50 上ホロカメットク山 （昼食時間 20分）	10:30 上ホロカメットク山	
（昼食時間 20分）	11:30 上富良野岳	11:00 大砲岩 （昼食時間 20分）	（昼食時間 20分）
12:25 美瑛岳	12:15 上ホロ分岐	12:20 十勝岳	12:40 原始が原
	12:30 安政火口分岐		
13:50 ポンピ沢	13:00 十勝岳温泉下山		
	13:20 バス発車 （3号車） （役員8別送）		
	14:00 ユースピア着	14:05 雲ノ平分岐	14:00 布礼別下山
15:00 雲ノ平分岐		14:50 望岳台下山	14:30 バス出発（1号車）
	（入 浴）	15:00 バス発車 （2・3・4号車）	
15:45 望岳台下山		15:15 ユースピア着	15:30 ユースピア着
15:55 バス発車 （2・3号車）		（入 浴）	（入 浴）
16:10 ユースピア着 （入 浴）			
18:00 夕食	17:00 夕食	17:00 夕食	17:30 夕食
	19:00～19:30	閉 会 式	
	19:30～21:00	交 歓 会	
	22:00	消 灯	

7月12日(土) 登山行動日の行動表 (E～H隊)

Eコース (19名)	Fコース (13名)	Gコース (12名)	Hコース (35名)
芦別岳往復	美瑛富士往復	三段山往復	旭岳→中岳温泉
4:00 朝食 (弁当配布) 4:45 バス発車 (5号車)	4:30 朝食 (弁当配布)		4:00 朝食 (弁当配布)
6:15 新道登山口到着 6:35 登山開始	5:50 バス出発 (4号車C4隊と) 6:05 望岳台到着 6:25 登山開始	5:00 朝食 (弁当配布)	5:00 バス発車 (6号車; I隊と) 6:00 旭岳ロープウエー着 6:30 姿見駅着 6:50 登山開始
10:05 半面山	7:20 雲ノ平分岐 8:20 ポンピの沢 10:10 美瑛富士	7:50 バス出発 (4号車) 8:10 白銀荘到着 8:30 登山開始	7:10 姿見の池 9:10 旭岳 10:10 間宮岳 (昼食時間 30分)
10:55 雲峰 11:35 芦別岳	(昼食時間 20分)	(昼食時間 30分)	11:00 中岳分岐 11:50 中岳温泉
(昼食時間 20分)	12:00 ポンピの沢 12:40 雲ノ平分岐 13:25 望岳台下山 13:35 バス発車 (4号車) 13:50 ユースピア着	12:30 白銀荘下山 12:45 バス出発 (5号車) 13:15 ユースピア着	12:40 裾合平 14:30 姿見駅下山 15:00 旭岳ロープウエー着 15:10 バス出発 (6号車)
15:30 新道登山口下山 15:35 バス発車 (5号車)	(入 浴)	(入 浴)	16:10 ユースピア着 (入 浴)
17:05 ユースピア着 (入 浴)	17:00 夕食	17:00 夕食	17:30 夕食
18:00 夕食			
19:00～19:30		閉 会 式	
19:30～21:00		交 歓 会	
22:00		消 灯	

7月12日（土）登山行動日の行動表（E～H隊）

Iコース（16名）	Jコース（23名）
旭岳往復	姿見の池周遊
4:00 朝食（弁当配布）	
5:00 バス発車（6号車）	5:30 朝食（弁当配布）
6:00 旭岳ロープウエー着	
6:30 姿見駅着	
6:50 登山開始	
7:10 姿見の池	7:30 バス発車（6号車）
	8:30 旭岳ロープウエー着
	8:30 姿見駅着
9:10 旭岳	9:00 登山開始
（昼食時間 20分）	
	11:20 姿見駅下山
12:00 姿見駅下山	
12:40 旭岳ロープウエー着	12:40 旭岳ロープウエー着
12:50 バス発車 （2号車）	12:50 バス発車 （2号車）
13:50 ユースピア着	13:50 ユースピア着
（入浴散策）	（入浴散策）
17:00 夕食	17:00 夕食
19:00～19:30	閉 会 式
19:30～21:00	交 歓 会
22:00	消 灯

【コース案内】

() 内・・・全 → バス移動時間+登山時間、山 → 登山時間

◆Aコース (望岳台～十勝岳～美瑛岳～望岳台/全 10:10、山 9:40)

宿舎=バス 0:15=望岳台～0:55～雲の平分岐～0:10～避難小屋跡～2:40～十勝岳～2:35～美瑛岳～1:25～ポンピ沢～1:10～雲の平分岐～0:45～望岳台=バス 0:15=宿舎

十勝岳は平成元年にも噴火した活火山で、昭和 37 年に大噴火した新噴火口は現在も白煙を空高く吐いている。地図上の 1646m の火口は大正 14 年の大噴火の火口で、作家三浦綾子の小説「泥流地帯」はこの時の噴火被害を描いたものである。

美瑛岳は旧火山で、頂上の南側は爆裂火口の崖となってポンピ沢まで切れ落ちている雄雄しい山容の山である。

望岳台から火山礫のガレ道を南東の方角に見える頂上にめがけて進む。雲の平分岐、避難小屋跡を過ぎたところから左手の尾根に取り付き、ザレた急な登りを抜けると新々噴火口の上のすり鉢火口の上に出る。しばらく広々としたゆるい斜面を歩き急な登りを二つ越えると頂上である。十勝岳連峰の主峰である頂上は大岩が積み重なったような場所で、東西南北の山々が見渡せる最高の展望台である。ここから美瑛岳へ概ね北東の方角に砂漠地帯のような道を進む。鋸岳(1980m)横からガレを下りコルへ、ここからポンピ沢を左に見ながら半周登ると美瑛岳の狭い岩棚の頂上に着く。

下りはそのままポンピ沢を覗きながら西へ進み美瑛富士への分岐を過ぎてからいっきに沢底まで下る。花を愛でながらゆるく登り、北向沢(勝瑛の滝に出る沢)の鎖場を越え雲ノ平の花の道を大

きく左に回りこみながら下ると、雲ノ平分岐で往路に出て望岳台が下方に見える。



ポンピ谷越しの美瑛岳

◆Bコース (望岳台～十勝岳～上ホロカメットク山～十勝岳温泉 全 8:20、山 6:45)

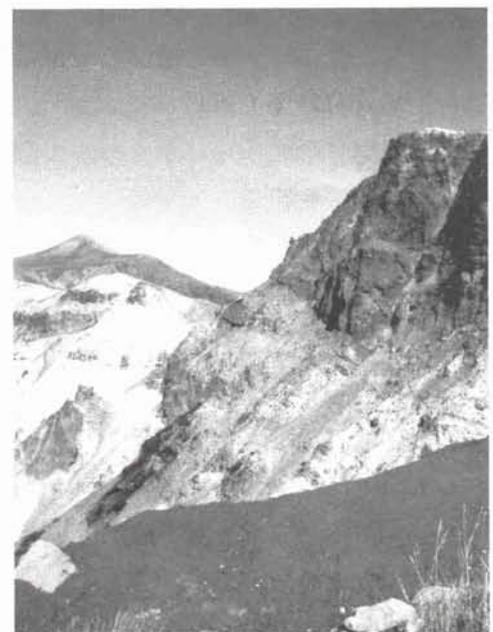
宿舎=バス 0:15=望岳台～0:55～雲の平分岐～0:10～避難小屋跡～2:40～十勝岳～0:40～大砲岩～0:40～上ホロカメットク山～0:20～上富良野岳～0:45～上ホロ分岐～0:15～安政火口分岐～0:30～十勝岳温泉=バス 0:35=宿舎

BコースとCコースは交差縦走のコースとなっている。十勝岳については、Aコースの説明参照。

上ホロカメットク山は十勝岳の南西尾根続きの山で、安政火口の東に位置し、道内の冬季岩稜クライミングに人気の山でもある。

十勝岳頂上まではAコースを参照されたい。

ここから上ホロカメットク山へは南西に下り、P1921 を越えて両側が切れ落ちた馬の瀬の細い尾根を大砲岩 (P1921 の



十勝岳 (左奥) と上ホロカメットク山

先の分岐点)へ、更に安政火口を右に見ながらコルに下り、避難小屋を左に見ながら登りかえして上ホロカメットク山に出る。次の峰の上富良野岳でから右に折れ、整備された木道階段の300階段を下る。上ホロ分岐を右へ折れ、尾根(通称D尾根)を大きく回り込んでヌッカクシフラヌイ川の谷の上に出ると、正面に安政火口が見渡せ、十勝岳温泉登山口までのコースが一望できる。荒れたヌッカクシフラヌイ川の谷へ一気に下り沢を渡って登山口に出ると温泉の登山口は近い。

◆ **Cコース** (十勝岳温泉～上ホロカメットク～十勝岳～望岳台／全8:00、山7:15)

宿舎=バス 0:35=十勝岳温泉~0:40~安政火口分岐~0:30~上ホロ分岐~1:30~上富良野岳分岐~0:30~上ホロカメットク山~0:30~大砲岩~1:00~十勝岳~1:40~避難小屋跡~0:05~雲の平分岐~0:45~望岳台=バス 0:15=宿舎

CコースとBコースは交差縦走のコースとなっている。

上ホロカメットク山についてはBコース、十勝岳はAコースの説明を参照。

十勝岳温泉登山口からヌッカクシフラヌイ川沿いに特徴のある岩峰ハッ手岩を目がけ進む。安政火口の手前で一旦沢に下り、右折して化け物岩手前の急崖の道を登り尾根(通称D尾根)上に出る。

D尾根を回り込むように進み大岩を登ると上ホロ分岐に出る。ここを左折し花の斜面を過ぎると木の階段が続く300階段、登りきると眼前に奇怪な形のハッ手岩が迫る。急な登りにあるローソク風の岩を過ぎると上富良野岳で東の山々が見渡せる。北東に少し下りガレ道を上り返すと上ホロカメットク山である。避難小屋目がけて下り登りかえして大砲岩(地図上では三段山への分岐になっている)。両側が切れ落ちた馬の瀬の細い尾根を越え、ザレ道を登ると十勝岳頂上で、周囲の山々が見渡せる最高の展望台である。

下りは前十勝岳の噴煙に目がけ北西に下り、肩から北東へ右折、グランド火口の縁をすり鉢火口(新々噴火口の右上)へとゆるい下りを進む。ザレた急な下りを過ぎ、避難小屋跡、雲ノ平分岐に出て望岳台は目の前である。

◆ **Dコース** (十勝岳温泉～富良野岳～原始が原～布礼別登山口／全8:45、山7:20)

宿舎=バス 0:35=十勝岳温泉~0:40~安政火口分岐~0:30~上ホロ分岐~2:30~富良野岳~2:30~原始ヶ原~1:20~布礼別登山口=バス 1:00=宿舎

富良野岳は十勝岳連峰の最南端に位置し、裾野南に広がる原始ヶ原とともに花の山で親しまれている。上ホロ分岐まではCコース参照。

上ホロ分岐からはがそのまま直進し三峰山からの沢を越え、主稜線の下をほぼ等高線に沿って進む。左折して急な斜面を登ると広い稜線のお花畑となる。ここから斜面を左側(南)に回り込みながら登り、花の咲き乱れる狭く急な坂を登りきると富良野岳頂上である。北東に続く大雪山の山なみが見渡せ、南方眼下には原始が原の緑の絨毯が広がる。

下山はそのまま西へ直進し肩からガレ道をいきなり原始が原まで下る。湿原なので登山道にぬかるみも有るが花と沼の景色を楽しみ



原始が原と富良野岳

ながら緩やかに下りる。広原の滝を見ながら橋を渡ると間もなく林道に出る、そのまま下ると登山口に着く。

※後半の湿原「原始が原」には木道が設置されていません。靴が相当汚れることを想定して準備してください。

◆Eコース (芦別岳新道往復全/全 11 : 40、山 8 : 40)

宿舎=バス 1:30=芦別岳新道登山口 (山部) ~3:30~半面山~0:50~雲峰山~0:40~芦別岳~3:40~登山口=バス 1:30=宿舎



芦別岳の象徴、夫婦岩

芦別岳は頂上から山体をナイフで切り裂いたような絶谷（ユーフレ川本谷）が特徴の鋭鋒であり、その両側の岩場や急峻な岩稜が道内クライマーの格好のゲレンデとなっていて、北海道のアルプスと呼ばれている。麓の山部からは、頂上の右に二つ並んだ岩峰の夫婦岩が印象的な風景を作っている。

ユーフレ川を挟むように登山道が新道と旧道の二つあるが、今大会は新道ルートに登る。

登山口から鷲谷まではただひたすら樹林の中の長い登りである。半面山でようやく頂上を望むことが出来る。ここから少し下り、屏風岩を右に見て雲峰山へ登ると眼前に頂上が立ちはだかる。一旦下り大斜面を直上し最後は岩場を回りこみ狭い頂上に着く。

頂上からは東は富良野盆地をはさみ十勝岳連峰から旭岳まで、西は暑寒別連峰、南に夕張岳等が望め疲れた体を癒してくれる。下りは同じコースをたどる。

※コース全体が急登の連続です。

◆Fコース (望岳台~美瑛富士往復/全 7 : 00、山 6 : 30)

宿舎=バス 0:15=望岳台~0:55~雲の平分岐~1:00~ポンピ沢~1:50~美瑛富士~1:20~ポンピ沢~0:40~雲の平分岐~0:45~望岳台=バス 0:15=宿舎

美瑛富士は十勝岳連峰の中では低いのが、他の峰々の形と違って頂上が丸く、富士山のようにみえるのでこの名がついている。

望岳台から比較的なだらかな道を十勝岳方面に進み、雲の平分岐を左へ十勝岳山腹を回り込むと雲ノ平のお花畑の高山植物が歓迎してくれる。北向沢(勝瑛の滝に出る沢)の鎖場を越えポンピ沢に出る。ここから標高差 200m の急崖を一気に登り美瑛岳の肩に出る。美瑛岳分岐からはほとんど等高線上を美瑛富士分岐まで進むが、ガレ場に雪渓が残っているので陥没に注意が必要。分岐からガレ場に咲く花を見ながら急斜面を登ると、美瑛富士の広い頂上である。下りは同じ道をたどる。



美瑛富士 (左) と美瑛岳 (右)

◆Gコース (白銀荘～三段山往復／全4:30、山3:30)

宿舎=バス 0:30=白銀荘~2:00~三段山~1:30~白銀荘=バス 0:30=宿舎

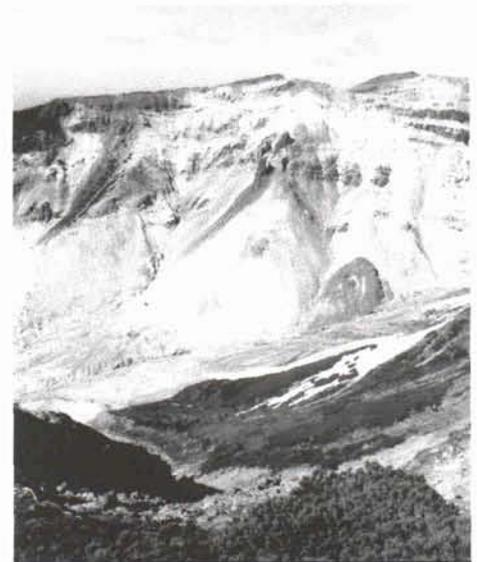
三段山は十勝岳連峰の大展望台で、冬は中腹の吹上温泉白銀荘を根拠地とできるので、パウダースノーを楽しむスキーヤーやボーダーのメッカとしても親しまれている。

コースは二つあるが、今回は吹上温泉白銀荘から往復する。

登山口は白銀荘の正面にあり、初めは笹の生い茂るガラダラの道を進み、やがて斜度がきつい樹林の中を登る。三段山の北西尾根を登り視界が開けると眼前に十勝岳、遠くには旭岳方面が見渡せる。高山植物の花を楽しみながら登っていくうちに頂上に着く。

頂上からの眺めは変化に富み、足下の安政火口から立ち上がる上ホロカメットク山の岬々たる岩壁帯、それに続く富良野岳の堂々とした姿、富良野盆地の向こうには芦別岳、夕張岳等望まれる。そしてやはり圧巻は十勝岳。噴煙上がる前十勝岳から伸び上がって頂上がすっきり立っている。

下りは同じ道をたどる。



三段山（正面）と安政火口

◆Hコース (旭岳ゴンドラ～旭岳～間宮岳～中岳温泉～旭岳ゴンドラ／全9:30、山7:10)

宿舎=バス 1:00=旭岳温泉=ゴンドラ 0:10=姿見駅~0:20~姿見の池~2:00~旭岳~1:00~間宮岳~0:20~

中岳分岐~0:50~中岳温泉~0:50~裾合平~1:50~姿見駅=ゴンドラ 0:10=旭岳温泉=バス 1:00=宿舎

旭岳は北海道の最高峰で、5合目では噴煙を吐き出している活火山である。間宮林蔵の名を冠した間宮岳は、約3万年前に層雲峡を作った大噴火に伴う陥没カルデラであるお鉢平を囲む山々のひとつである。

ゴンドラ姿見駅を降りた一帯の台地を旭平と言い、旭岳、トムラウシ山、十勝岳連峰を望む大展望台である。7月は高山植物が一齐に花開き大群落をつくりカムイミンタラ（神々の来たりて遊ぶ庭）と呼ばれるに相応しい場所である。

ここから姿見の池のある丘に立つ、「大雪山愛の鐘」の塔を目がけて進む。姿見の池から観る旭岳は雄大そのものである。

丘の南側に避難小屋が有るが緊急時のみの利用となっている。丘が5合目で旭岳へは姿見の池を右へ南から巻き込み、地獄谷の南側尾根を登る。火山礫の歩きづらい道が頂上まで続く。きつい登りであるが6合目半と8合目近くにゆるい所があり格好の休憩場所となっている。9合目のガレ場をすぎるとニセ金庫岩のある平らな地形で、ここを大きく左に曲がると地獄谷に突き出した四角い金庫岩がある。頂上はすぐ目の前で急な砂礫状の道を登る。

旭岳頂上は晴れていれば360度の大大パノラマを堪能できる。間宮岳へは頂上から東斜面の下に見える裏旭キャンプ指定地のコルを目がけて下るが、前半は急な砂礫、後半は雪溪でどちらも滑りやすいので



旭岳頂上から北方の眺め（中央やや右に北嶺岳）

慎重に下る。コルから登り返した台地上を左に熊ヶ岳を見ながら進むと、正面にお鉢平（陥没カルデラ）の縁に出、左折して間宮岳頂上に着く。どこが頂上か判然としない台地を進み、下りきったところが中岳分岐でここを左折して裾合平へ下る。急な崖を降りたところに中岳温泉（施設は無く自然の露天風呂）がある。そこからお花畑の木道を進み裾合平で左折、のぼり気味に旭岳の裾をトラバースしていくとゴンドラ駅舎が見える。やがて道はだらだらとしたくだりになって夫婦沼の手前で遊歩道に合流する。あとは花の道を進むとコースの終了となる。

※旭岳から裏旭への下りは急な雪渓が長く続きます。

◆ **Iコース** (旭岳ゴンドラ～旭岳往復／全7:10、山5:10)

宿舎=バス 1:00=旭岳温泉=ゴンドラ 0:10=姿見駅~0:20~姿見の池~2:00~旭岳~2:30~姿見駅=ゴンドラ 0:10=旭岳温泉=1:00=宿舎

旭岳頂上までのコースの概要はHコースを参照。

下山は来た道に戻ることになるが足場が悪いので充分注意して欲しい。

◆ **Jコース**

(旭岳ゴンドラ～旭平・姿見の池周遊／全3:50、山1:50)

宿舎=バス 1:00=旭岳温泉=ゴンドラ 0:10=姿見駅~0:50(遊歩道)~姿見の池~0:40~姿見駅=ゴンドラ 0:10=旭岳温泉=バス 1:00=宿舎

姿見の池まではHコースを参照。

大小の湖沼が有り、特に最上部の沼は旭岳がきれいに映る事から姿見の池と名付けられている。この丘には遭難防止を願う「大雪山愛の鐘」がある。姿見の池上部には噴気孔があり、間近まで行け活火山であることを実感できる。



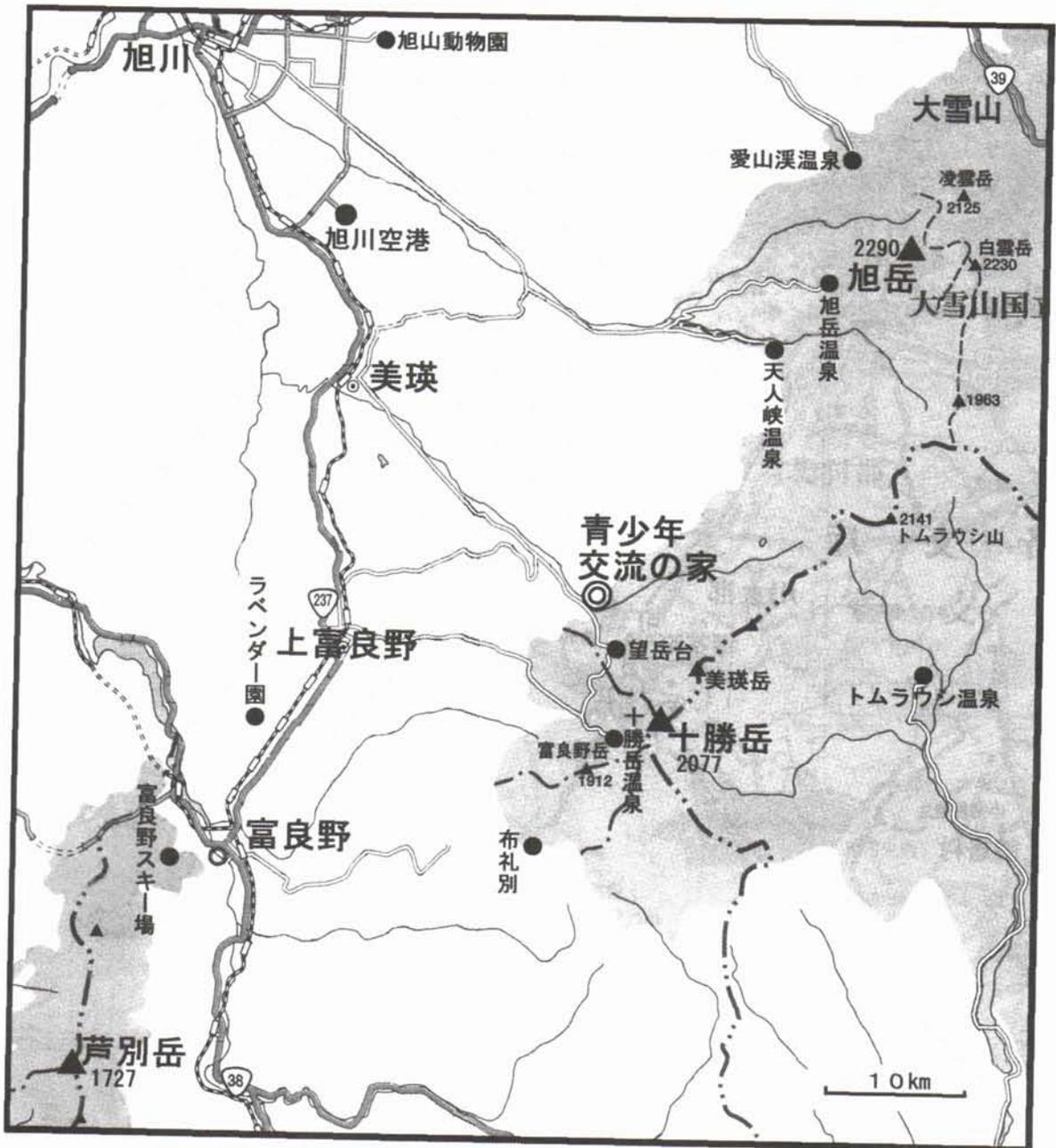
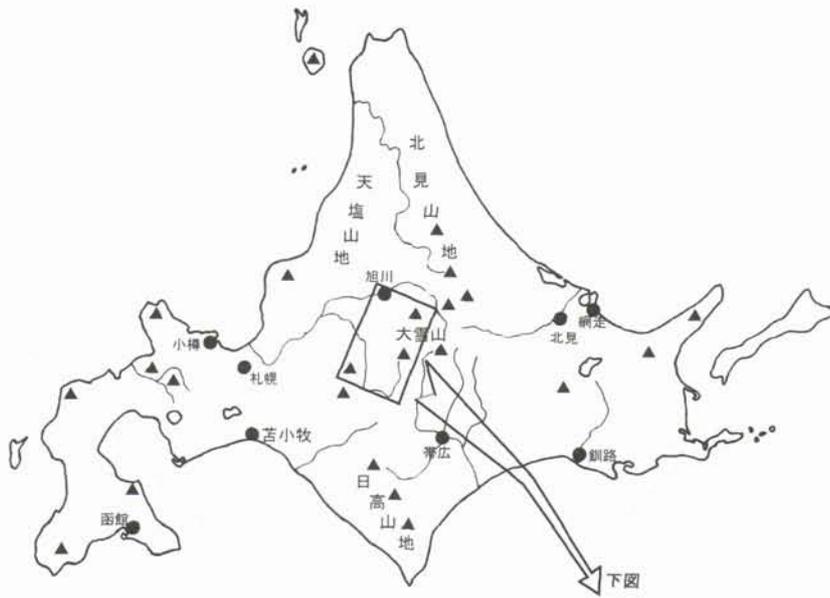
旭岳と姿見の池への遊歩道（手前は夫婦池）

一周2km 足らずの遊歩道だが展望台が五つあり、大雪山の自然を満喫できるすばらしい場所である。

ゆっくり歩けるので山と花の写真を撮るには最適のコースである。

ゆっくり歩けるので山と花の写真を撮るには最適のコースである。







十勝岳連峰

旭岳周辺



芦別岳



第47回全日本登山体育大会参加者名簿

都府県	氏名	性	所属	コース	都府県	氏名	性	所属	コース
青森	扇田 守	男	十和田山岳会	C 1	宮城	佐藤 久雄	男	塩釜山岳会	B 2
	松田 弘	男	十和田山岳会	C 1		菊地 道彦	男	宮城山の会	B 2
	平野郁太郎	男	十和田山岳会	C 1	秋田	高橋 守	男	県岳連	F
	五十嵐千明	男	十和田山岳会	C 1		渡部 博	男	県岳連	C 2
	吉田 勝利	男	十和田山岳会	C 1		加賀谷昭一	男	県岳連	C 2
	阿部 勝美	男	十和田山岳会	C 2		藤田 義朗	男	県岳連	C 2
	田原 茂	男	十和田山岳会	C 2	山形	鈴木 博	男	大江山岳会	I
	大田 篤子	女	十和田山岳会	C 2		公平 徹	男	大江山岳会	I
	佐々木 節	女	十和田山岳会	C 2		工藤 幸子	女	大江山岳会	I
	鈴木きみ子	女	十和田山岳会	C 3		福島	片山 春雄	男	白河山岳会
	山川世喜子	女	十和田山岳会	C 3	大竹 朋夫		男	白河山岳会	A
	志田 チコ	女	十和田山岳会	C 3	菊池 清二		男	白河山岳会	A
	新井由美子	女	十和田山岳会	C 3	西牧 和子		女	白河山岳会	A
	深堀 陽子	女	十和田山岳会	C 4	茨城	藤田まさ江	女	白河山岳会	A
	田中 郁子	女	十和田山岳会	C 4		保坂 昭憲	男	こまくさ山岳会	E
	工藤 洋子	女	十和田山岳会	C 4		保坂サカエ	女	こまくさ山岳会	E
	須田山悦子	女	十和田山岳会	C 4		荒木 浩二	男	水戸山の会	C 2
	梅田 慶子	女	十和田山岳会	C 4	栃木	柳橋 鈴子	女	守谷山の会	A
	服部 一雄	男	みちのく山岳会	B 1		小松 由美	女	守谷山の会	A
	川端 満	男	みちのく山岳会	B 1		山川 政子	女	守谷山の会	A
岩手	山口 吉男	男	県山岳協会	E		群馬	矢作 榮一	男	産総研山の会
	角掛喜美夫	男	県山岳協会	E	手塚 福寿		男	宇都宮溪嶺会	B 1
	角掛美智世	女	県山岳協会	E	手塚 明子		女	宇都宮溪嶺会	B 1
	阿部 定志	男	県山岳協会	E	坂口 三郎		男	県岳連	C 2
	佐々木八寿子	女	県山岳協会	C 1	埼玉	小林 次郎	男	県岳連参与会	J
	吉田 ヒテ	女	県山岳協会	C 1		水野金太郎	男	沼田山岳会	C 4
	畠山 征敏	男	県山岳協会	C 1		下荒磯しげ子	女	沼田山岳会	C 4
	熊谷恵久子	女	県山岳協会	C 1		小熊 幸雄	男	沼田山岳会	C 4
	大森 孝子	女	県山岳協会	F		藤巻 朝男	男	沼田山岳会	C 4
	植田 瑞穂	男	県山岳協会	E		藤巻ひろみ	女	沼田山岳会	C 4
	武田 勝栄	男	県山岳協会	E		中村江津子	女	沼田山岳会	C 4
	佐々木忠夫	男	県山岳協会	E		辻中 正子	女	沼田山岳会	C 4
	中村 桂悦	男	県山岳協会	E	宮城	柳原 政一	男	小鹿野山岳会	H
	小林きのえ	女	県山岳協会	F		加藤 忠司	男	小鹿野山岳会	H
	浅野 誠治	男	県岳連	A 1		今井 孝江	女	小鹿野山岳会	H
	佐藤 盛雄	男	仙台山想会	J		加藤 加豆	女	小鹿野山岳会	H
横山 哲	男	塩釜山岳会	B 2	坂本 吉弘		男	小鹿野山岳会	H	
小野寺節夫	男	塩釜山岳会	B 2	坂本 蔵子		女	小鹿野山岳会	H	
松本 洋子	女	塩釜山岳会	B 2	大野 賢一		男	奥武蔵WV	H	
				柳下 明男		男	小鹿野山岳会	J	

第47回全日本登山体育大会参加者名簿

都府県	氏名	性	所属	コース	都府県	氏名	性	所属	コース
千葉	大木 修省	男	県岳連OB会	D	富山	清水 正彦	男	県岳連	I
	重久 淳	男	県岳連OB会	D		森 修作	男	県岳連	I
	金澤 鉄造	男	県岳連OB会	H		菅田 静子	女	県岳連	I
	野口 榮一	男	県岳連OB会	H		山本 勝昭	男	県岳連	I
	山口 峰雄	男	県岳連OB会	H		高瀬 祐一	男	県岳連	J
	横元 明	男	県岳連OB会	I		石川 村田 信親	男	県山岳協会	J
	吉野 弘	男	県岳連OB会	J		村田 孝子	女	県山岳協会	J
東京	野田 寛	男	県岳連OB会	J	山梨 保坂 照行	男	南嶺会	D	
	石井美音子	女	都岳連	H	長野 佐野 隆司	男	伊那山の会	A2	
	中里 紀子	女	都岳連	H	唐木 勉	男	伊那山の会	J	
	坂上 利明	男	東京山俱樂部	H	内藤 英昭	男	伊那山の会	J	
	坂上 弥生	女	東京山俱樂部	H	静岡 森 しげよ	女	清水ハイキング	A2	
	藤寄 泰司	男	東京山俱樂部	H	山本 主計	男	清水ハイキング	B1	
	吉崎四一郎	男	都岳連	J	榊 さだ子	女	清水ハイキング	B1	
	吉崎 寛子	女	都岳連	J	遠藤 作一	男	清水ハイキング	I	
	森谷重二郎	男	都岳連	J	遠藤とし子	女	清水ハイキング	J	
	佐藤 晃旺	男	都岳連	J	和田てる子	女	清水ハイキング	J	
神奈川	山本 春雄	男	都岳連	J	浅井 幸枝	女	清水ハイキング	J	
	梅澤 佳子	女	横浜山岳協	A2	岐阜 高倉 敦	男	川重OB山岳会	C2	
	美野 昭子	女	横浜山岳協	A2	伊 高橋 正美	男	川重OB山岳会	C2	
	園田 誠	男	横浜山岳協	A2	長谷川 充	男	川重OB山岳会	C2	
富山	吉良 文子	女	横浜山岳協	A2	愛知 井上 順章	男	三菱重工名誘	A1	
	本郷 潤一	男	県岳連	A1	竹本 勝	男	三菱重工名誘	A1	
	永山 義春	男	県岳連	A1	前田 政則	男	三菱重工工業名古屋	B1	
	前田 充一	男	県岳連	A1	金田 博秋	男	三河クラブ	D	
	谷村 正則	男	県岳連	C1	鈴木 道子	女	三河クラブ	D	
	藪中 進	男	県岳連	C1	加藤 佳子	女	三河クラブ	D	
	村上 直樹	男	県岳連	C1	矢所 安子	女	三河クラブ	D	
	松本 睦男	男	県岳連	C1	中山ともこ	女	三河クラブ	D	
	水上 成雄	男	県岳連	C1	三重 西村 力	男	松阪山岳会	A2	
	山田 毅	男	県岳連	C1	中林 吉美	女	松阪山岳会	A2	
	東森 博	男	県岳連	C1	山本 栄一	男	松阪山岳会	A2	
	野崎 裕一	男	県岳連	H	山本美津子	女	松阪山岳会	A2	
	野崎 良子	女	県岳連	H	丹羽 泰彦	男	鈴鹿山岳会	B1	
	山田 信明	男	県岳連	H	米倉 哲	男	鈴鹿山岳会	B1	
	山田 妙子	女	県岳連	H	米倉クニエ	女	鈴鹿山岳会	B1	
	中島 雅夫	男	県岳連	H	小野 肇	男	鈴鹿山岳会	B1	
	中島小夜子	女	県岳連	H	小野 美春	女	鈴鹿山岳会	B1	

第47回全日本登山体育大会参加者名簿

都府県	氏名	性	所属	コース	都府県	氏名	性	所属	コース
三重	浜岡 隆雄	男	鈴鹿山岳会	B 2	兵庫	牧野 博子	女	神戸ヒヨコ登山会	B 1
	河辺 博治	男	鈴鹿山岳会	B 2		秋田 正之	男	神戸ヒヨコ登山会神	C 4
	神谷 卓芳	男	鈴鹿山岳会	B 2		山内 正明	男	戸ヒヨコ登山会	C 4
	大岡 のり	女	鈴鹿山岳会	B 2		乾 辰雄	男	神戸ヒヨコ登山会	C 4
	浜岡ヒロ子	女	鈴鹿山岳会	B 2		小西美津子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 4
	二瓶 芳子	女	松阪山岳会	F		栗原 京子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 3
滋賀	清水 昭男	男	県岳連	C 3	河崎 妙子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 3	
	吉岡 清光	男	県岳連	C 3	川崎 章男	男	神戸ヒヨコ登山会	C 3	
	林 健司	男	県岳連	C 3	伊勢マス子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 3	
	今井康太郎	男	県岳連	C 3	酢屋 瑛子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 2	
京都 大阪	長谷川松治	男	京都峯友会	J	古久保正子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 2	
	久保田博巳	男	やまゆき会	A 1	漁野 笑子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 2	
	坂下 幸一	男	やまゆき会	A 1	金本 良子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 2	
	坂下 悦子	女	やまゆき会	A 1	漁野ヒデ子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 2	
	磯野 政司	男	やまゆき会	A 1	近藤加代子	女	ウエスタクラブ	C 1	
	金山チヨ子	女	やまゆき会	A 1	井上 千代	女	ウエスタクラブ	C 1	
	井上 安夫	男	やまゆき会	C 3	田中 和夫	男	県岳連	C 1	
	中村 彰利	男	やまゆき会	C 3	田中 節子	女	R・O・C	C 1	
	疋田 正紀	男	やまゆき会	C 3	取田伊勢子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 1	
	吉田 慎平	男	やまゆき会	C 3	木澤 恭子	女	神戸ヒヨコ登山会	C 1	
	松井 淳子	女	やまゆき会	C 3	吉田 康雄	男	神戸ヒヨコ登山会	C 1	
	松村 文子	女	やまゆき会	D	三宅 久雄	男	神戸ヒヨコ登山会	E	
	浜崎 邦男	男	やまゆき会	I	福家三根男	男	神戸ヒヨコ登山会	F	
	浜崎 清美	女	やまゆき会	I	中島 龍	男	県岳連	G	
	大谷 榮子	女	やまゆき会	J	高田 實	男	神戸ヒヨコ登山会	G	
	田中 和子	女	やまゆき会	J	流 正弓	男	神戸ヒヨコ登山会	G	
	松矢 廣子	女	やまゆき会	J	森崎 洋	男	神戸ヒヨコ登山会	G	
	平松 純子	女	やまゆき会	J	永井 利昭	男	神戸ヒヨコ登山会	G	
	諸橋 久子	女	やまゆき会	J	流 イク子	女	神戸ヒヨコ登山会	G	
	兵庫	吉野 宏	男	県岳連	A 2	森崎 慶子	女	神戸ヒヨコ登山会	G
奥 武志		男	県岳連	A 2	金野尾正精	男	神戸ヒヨコ登山会	G	
三宅 正幸		男	神戸ヒヨコ登山会	A 2	切東 信子	女	神戸ヒヨコ登山会	G	
北西 正則		男	神戸ヒヨコ登山会	A 2	中藤 啓子	女	神戸ヒヨコ登山会	G	
石田 順久		男	神戸ヒヨコ登山会	A 2	大城 邦子	女	神戸ヒヨコ登山会	G	
清田 国彦		男	神戸ヒヨコ登山会	A 2	瀧本しづ子	女	神戸ヒヨコ登山会	G	
筒井はる江		女	神戸ヒヨコ登山会	B 1	奈良	中井 弘	男	奈良岳志会	B 1
若井 泰子		女	神戸ヒヨコ登山会	B 1		吉村 忠明	男	奈良岳志会	B 2
藤井 良子		女	神戸ヒヨコ登山会	B 1		乾 義明	男	奈良岳志会	B 2

第47回全日本登山体育大会参加者名簿

都府県	氏名	性	所属	コース	都府県	氏名	性	所属	コース
奈良	吉岡 明美	女	奈良岳志会奈良	B 2	山 口	宮重 新次	男	ハイキング山歩	A 2
	松尾直之助	男	岳志会	B 2		新谷 耕造	男	ハイキング山歩	A 2
島 根	村岡 暁	男	奈良岳志会	B 2	岡田美知子	女	ハイキング山歩	A 2	
	内谷小夜子	女	松江山の会	C 2	岡 研一	男	ハイキング山歩	A 2	
	岡村 一郎	男	松江山の会	C 2	阿部 貢	男	山口山岳会	A 2	
	岡本 勝也	男	松江山の会	C 2	山下 富雄	男	山口山岳会	A 2	
	岡本 文雄	男	松江山の会	C 2	奥園 和子	女	山口山岳会	A 2	
	小泉 敦代	女	松江山の会	C 2	阿部 智安	男	山口山岳会	A 2	
	坂本 美恵	女	松江山の会	C 3	阿部 善治	男	ハイキング山歩	B 1	
	中村シズエ	女	松江山の会	C 3	阿部 静江	女	ハイキング山歩	B 1	
	村松 通宏	男	松江山の会	C 3	尾原 浩子	女	ハイキング山歩	B 1	
	山本 晴光	男	松江山の会	C 3	田中 守	男	山口山岳会	B 2	
	吉野 史子	女	松江山の会	C 3	田中美智子	女	山口山岳会	B 2	
	野津 治	男	松江山の会	C 3	幾田 幸一	男	山口山岳会	B 2	
	竹田美代子	女	浜田山の会	H	幾田喜久代	女	山口山岳会	B 2	
	河野 春江	女	浜田山の会	H	伊藤 隆文	男	下関山岳会	D	
	川神真由美	女	浜田山の会	H	江頭 徳治	男	下関山岳会	D	
	松本 則子	女	浜田山の会	H	宮元 勝	男	下関山岳会	D	
	岡 山	船越 仁	男	みつがしわ山の会	C 4	中村 節子	女	下関山岳会	D
山口 雅照		男	みつがしわ山の会	C 4	中川 孝	男	下関山岳会	D	
角南 順子		女	みつがしわ山の会	C 4	早川南凵子	女	下関山岳会	D	
小倉真須美		女	みつがしわ山の会	C 4	岡本 博之	男	下関山岳会	D	
赤木貴久子		女	みつがしわ山の会	C 4	岸田美智子	女	下関山岳会	D	
今川ツヤ子		女	玉野ミネルバ	F	岡邊 清	男	ハイキング山歩	D	
谷口 祥子		女	玉野ミネルバ	F	岡邊 チヨ	女	ハイキング山歩	D	
中務 恭子		女	玉野ミネルバ	F	小林 弘之	男	山口山岳会	D	
岡本 宏子		女	玉野ミネルバ	I	徳 島	中島 修	男	鳴門岳友会	A 2
岡本 忠良		男	玉野ミネルバ	I		栗田ヒロ子	女	鳴門岳友会	A 2
山 口	藤田 美恵	女	下関山岳会	A 1		野口 愛子	女	鳴門岳友会	A 2
	山崎 近史	男	下関山岳会	A 1	緒方 啓治	男	鳴門岳友会	F	
	上重 一枝	女	ハイキング山歩	A 1	大西 君代	女	鳴門岳友会	F	
	池田 静恵	女	ハイキング山歩	A 1	榊井 直代	女	鳴門岳友会	F	
	新谷 政子	女	ハイキング山歩	A 1	香 川	福栄 教人	男	高松市役所山岳SC	B 2
	水本 昭治	男	ハイキング山歩	A 1		石原 兄嗣	男	高松市役所山岳SC	B 2
	大平 清美	女	ハイキング山歩	A 1		大宅 秀美	女	高松山の会	C 2
	吉田 昌史	女	ハイキング山歩	A 1		柴崎 光子	女	小豆島山の会	H
	坂野 卓史	男	ハイキング山歩	A 2		大谷 孝子	女	小豆島山の会	H
	吉田 慶子	男	ハイキング山歩	A 2		片岡多恵子	女	小豆島山の会	H

第47回全日本登山体育大会参加者名簿

都府県	氏名	性	所属	コース	都府県	氏名	性	所属	コース	
香川 愛媛	高橋真知代	女	小豆島山の会	I	大分	後藤利雄	男	県高校登山研究会	A1	
	青木正樹	男	県岳連	C1		小埜信代	女	大分りょうぜん	A1	
	西田六助	男	県岳連	C1		田尻好子	女	中津山岳会	A1	
	竹内英世	男	県岳連	C1		首藤宏史	男	県高校登山研究会	B1	
	山内淳	男	県岳連	C1		波田野英哲	男	大分ナーゲル	B1	
	小野寺久	男	県岳連	C1		螻川内久司	男	日出山岳会	B1	
	久保國隆	男	県岳連	C2		石神美智子	女	大分りょうぜん	B2	
	秋川八重子	女	県岳連	C2		衛本秀允	男	大分りょうぜん	B2	
	武知秀子	女	県岳連	C2		衛藤敬藏	男	緒方山岳会	B2	
	重見佳多枝	女	県岳連	C2		平井寿広	男	緒方山岳会	B2	
	柳原豊子	女	県岳連	C2		城内泰司	男	日出山岳会	E	
	重松文剛	男	R. S. C. G	C3		江村加代子	女	日出山岳会	E	
	青野信子	女	R. S. C. G	C3		杉田和子	女	日出山岳会	E	
	桧垣セツ子	女	R. S. C. G	C3		神田豊徳	男	三重山岳会	E	
	倉橋町子	女	R. S. C. G	C3		小倉真理	女	中津山岳会	E	
高知	草木原ヤエ	女	R. S. C. G	F	宮崎	三浦敬志	男	日出山岳会	I	
	田中稔	男	中村山の会	A2		久永博之	男	県高体連	D	
	伊達幸雄	男	中村山の会	A2		渡辺良和	男	県高体連	D	
	麻田正博	男	四季岳友会	F		清水弘子	女	県高体連	D	
	米田藤子	女	中村山の会	H		甲斐一範	男	県高体連	D	
	右城シヅ子	女	中村山の会	H		椋田裕子	女	都城山岳会	H	
	浜田勝子	女	中村山の会	H		鹿児島	山口勝久	男	鹿児島山岳会	B1
	上岡功	男	中村山の会	H						
	上岡末実	女	中村山の会	H						
	川村典子	女	中村山の会	H						
福岡	園川陽造	男	九国大山岳部0B会	C4		田中文男	男	(社)日本山岳協会		
	瀧口文三	男	九国大山岳部0B会	C4		大森薫雄	男	(社)日本山岳協会		
	村上隆啓	男	九国大山岳部0B会	C4		内藤順造	男	(社)日本山岳協会		
	小川由夫	男	九国大山岳部0B会	C4		仙石富英	男	(社)日本山岳協会		
	大道千鶴	女	九国大山岳部0B会	C4		本木聡子	女	(社)日本山岳協会		
	河上記代	女	九国大山岳部0B会	C4		牧野龍峰	男	(社)日本山岳協会		
	木村富士子	女	九国大山岳部0B会	C4		若月東兒	男	(社)日本山岳協会		
	戸高和義	男	新日鉄八幡	E		山本久子	女	(社)日本山岳協会		
	上田繁	男	新日鉄八幡	E		阿地政美	男	北海道山岳連盟		
	水口利江	女	新日鉄八幡	E		藤田理	男	北海道山岳連盟		
長崎	浦山弘	男	諫早山岳会	D		西信博	男	北海道山岳連盟		
						澤田清美	男	北海道山岳連盟		

祝

第47回全日本登山体育大会 北海道大会

人と地球のインターフェイス

ICI 石井スポーツ

ICI
Life With GREEN

Life With GREEN



すべてのアウトドアスポーツに対応できる提案型ショップとしてさらなる進化を目指していきます。
山や自然はもちろん、身近なアウトドアシーンなど、様々な楽しみ方をご提案。
豊かな暮らしに皆様をナビゲートしていきます。

ICI 石井スポーツ 札幌店

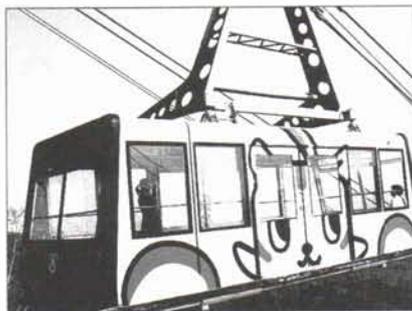
山とスキーの専門店
TEL: 011-726-2288

〒060-0011 札幌市中央区北11条西15丁目29-3
■ JR桑園駅から徒歩1分 ■ JR札幌駅から車で5分
ShopWeb: www.ici-sapporo.com



りんゆうツアー

山を愛する方々へ 北海道から外国まで



大雪山
層雲峡・黒岳ロープウェイ

本社・旅行業

〒060-0909 札幌市東区北9条東2丁目
TEL (011) 711-7106
FAX (011) 731-1456

層雲峡事業所

〒078-1701 上川郡上川町層雲峡
TEL (01658) 5-3031
FAX (01658) 5-3019

りんゆう観光

検索

<http://www.rinyu.co.jp>

ウェブマガジン カムイミンタラ

検索

<http://kamuimintara.net>

JOYFUL COMMUNICATION
Rinyu
Kanko りんゆう観光

アタックシリーズ



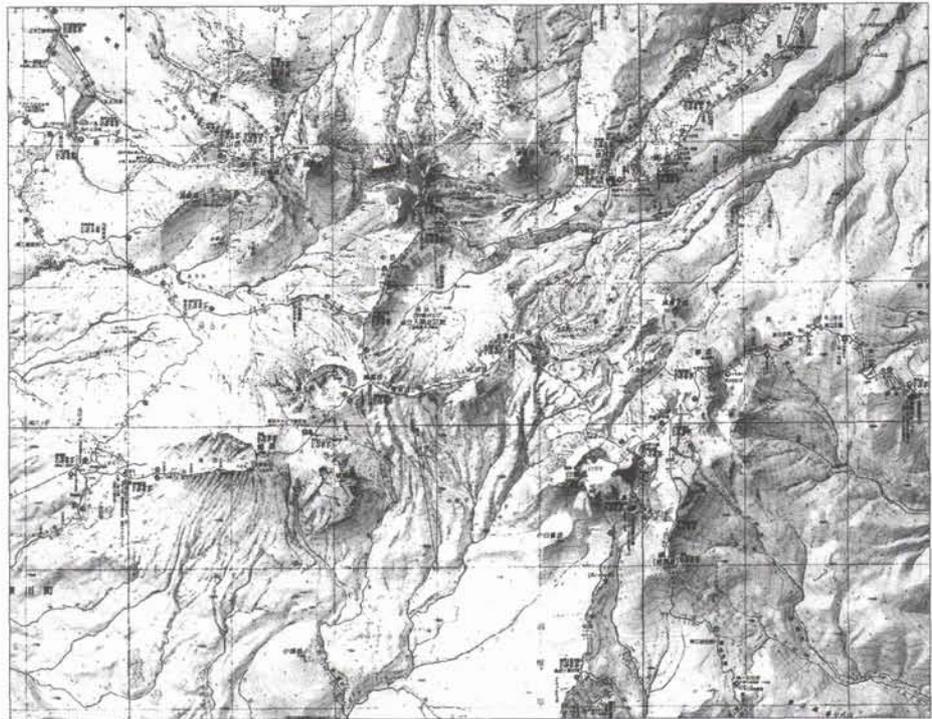
リアルな地形描写と詳細な情報。山岳地図の最高傑作です。



長期にわたる実踏調査で収集した情報をもとに編集。

段彩・立体ボカシによるリアルな表現が、ヤマへの憧れを強くする本格的な登山用地図です。

詳細情報満載のコースガイドブック付き。



アタック大雪山(抜粋)

本格登山地図 アタックシリーズ

好評発売中

定価：1,000円～1,200円

(本体952+消費税48円) (本体1,143+消費税57円)

ラインナップ

大雪山

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

利尻山・礼文岳(2枚組)

■定価：1,200円(本体1,143円+消費税57円)

十勝岳連峰

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

トムラウシ山

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

知床連峰

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

札幌・支笏周辺の山 2005年8月発売予定

■定価：1,200円(本体1,143円+消費税57円)

ニセコ連峰

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

羊蹄山

■定価：1,000円(本体952円+消費税48円)

ご購入・お問い合わせは

北海道地図株式会社

■出版事業部

〒070-8071 北海道旭川市台場1条2丁目1番6号
TEL 0166-62-6004

■ホームページ <http://www.hcc.co.jp/>

■Eメール publish@hcc.co.jp

●お電話やファクスでのお問い合わせはこちらまで

フリーコール 0120-625-531

フリーコールFAX 0120-999-660

●楽天市場にも出店しています。

楽天 <http://www.rakuten.co.jp/hcc/>

※商品の価格には送料は含まれていません。